



# ゆのおっ子だより

令和6年度 湯尾小学校長だより  
2024.9.20 NO. 25

## — 芸術の秋 「感じたことを伝え合う わたしとひびき合う」 (ギャラリートーク 5・6年生) —



20日(金)に、5・6年生が県立美術館に行きました。現在、県立美術館では、菱田春草の「落葉(おちば)」5点が全て展示されています。

(菱田春草は、福井県出身の岡倉天心の弟子で、福井県にも縁がある人物です。)

子どもたちは、その5点の「落葉」の前で、「絵をよく見て、見つけたり感じたりしたことを話し合う活動を通して、自分や友達の見方や感じ方の違いに気づき、自分の思いを持って作品の美しさを味わう。」ギャラリートークを行いました。

子どもたちは13日(金)に、事前に教頭先生をファシリテーターにして、福井県立美術館所蔵のレプリカで同じような流れでギャラリートークを行いました。子どもたちは、初め美術鑑賞をみんなで行うことに少し戸惑っていましたが、ポツポツと思いを言うことができるようになりました。授業後の感想では、「何かさみしい感じがする中で、明るさも感じられた。」や「春草の、病気が治って少しうれしい気持ちが伝わってきた。」などがありました。しっかりと絵を見て、思いを持つことができている子どもたちがすごいと思いました。



そして、今日は、県教育委員会の後藤先生にファシリテーターになっていただき、ギャラリートークをしました。初めてお目にかかる先生でしたが、子どもたちは、5点の絵をそれぞれ比べ、それぞれの絵の特徴を話し合うことができました。また、この5点の絵を短い時間で描いていたことに子どもたちも驚いていました。春草が、いかに集中して熱心に取り組んでいたのかが分かりました。

<子どもたちの感想です>

春草さんの絵に対していろいろな考えや意見が出てきたのが面白かったです。また、「朦朧体」という技法が、個人的にはとても好きです。とても楽しかったので、また行きたいなと思いました。(6年)

春草さんは「落葉」に、自分の人生をかけたんじゃないかなと思いました。(6年)

葉っぱが落ちてくる瞬間が描かれていたところが良かったなと思いました。(5年)

春草が挑んだ「空気を描く」という課題で「朦朧体」作り出すのはとてもすごいと思いました。色づかいがすごく良くて、きれいでした。(6年)

木の色や地面の色がきれいで好きになりました。鳥が3羽いたのが本物みたいでした。(5年)

落葉シリーズの中の作品で、くっきりした色づかいの作品は、春草さんがまだ目が見えているときのものなのかなと思いました。(5年)

最後に・・・。

子どもたちは、初めて美術館を訪れる子がほとんどでした。「本物」を目の前にするという経験も初めてだったと思います。「本物」の持つ力強さ、思いの強さ、そんなものを感じることができたのではないのでしょうか。「本物」に触れることは、本当に大切だと思いました。

今日は、限られた時間で訪れたので、子どもたちにとっては、足早に感じる子もいたかもしれません。ぜひお家の方で興味のある方は、時間を作っていただき、子どもたちと共に美術館に足を運んでほしいと思います。